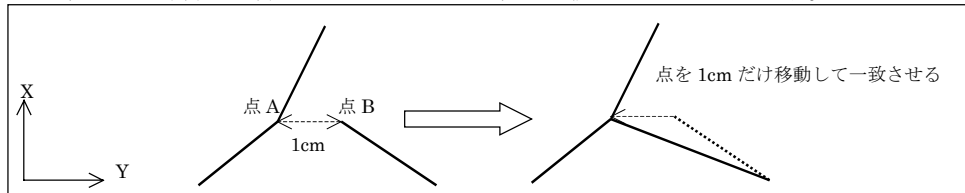


新しいメニュー[一括処理]-[座標のずれ対応]を追加しました。
 以下は、操作説明書からの抜粋です。

【座標のずれ対応】(GeoCoach3D の機能です)

本来は一致していると思われる点が、DMデータファイルの精度(例えば1/2500では1cm)だけ離れている場合があります。精度の距離だけ離れている座標を一致させる処理を行ないます。面・線要素について処理します。基本的な処理は、精度の距離だけ離れている点に注目し、点を移動して一致させます。



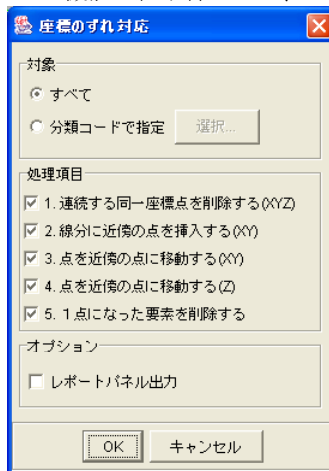
どちら側の点をそのままの座標にしておくかについては、次のような優先順位で判定します。

1. 図郭の矩形に載っている点
2. 点に接続する線分が多い方
3. 分類コードが小さい方
4. DMデータファイルで先に記述されている方

上図の場合、点Aに接続している線分の数は2、点Bに接続している線分の数は1で、点Aの方が多いため、点Aを動かさず、少ないほうの点Bを動かします。接続している線分の数が同じ場合、分類コードが大きい方を動かします。

点のZ値についても、同様に精度の距離のずれがあった場合、移動します。

他のメニューの機能と組み合わせて、一連の処理で座標のずれを解消します。



処理項目について上から順に処理します。一括処理をする場合、全ての項目にチェックを入れておいて下さい。ひとつずつ確認しながら処理をする場合、ひとつずつチェックを入れて実行してみてください。

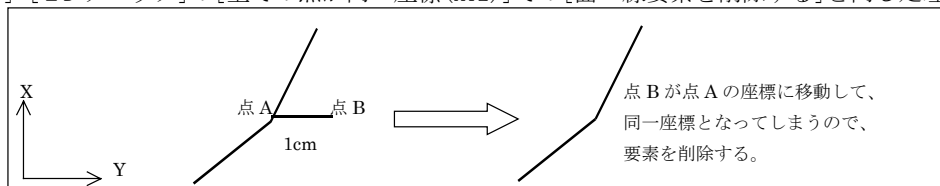
【1. 連続する同一座標点を削除する(XYZ)】面・線要素の点列について、同一XYZ座標が連続している場合、同一XYZ座標の点を削除します。[チェック]-[2Dチェック]の[次の点が同一座標(XYZ)]での[同一座標点を削除する]と同じ処理です。

【2. 線分の近傍の点を挿入する(XY)】ある要素Aの線分上に他の要素Bの点が載っている場合、要素Aに要素Bと同じXY座標の点を挿入します。挿入する点のZ座標は要素AのZ値から計算します。[チェック]-[ノードチェック]の[他の要素の線分上にある点]での[相手要素に点を挿入する]で[標高差許容値(m)]が0.011の場合と同じ処理です。

【3. 点を近傍の点に移動する(XY)】上図で説明した処理をXY座標について行ないます。

【4. 点を近傍の点に移動する(Z)】上図で説明した処理Z座標について行ないます。

【5. 1点になった要素を削除する】点を近傍に移動した結果、点列の全ての座標が同一座標になった要素を削除します。[チェック]-[2Dチェック]の[全ての点が同一座標(XYZ)]での[面・線要素を削除する]と同じ処理です。



処理の前後の状態を比較するには、[編集]メニューの[元に戻す]と[再実行]を使ってください。